第49回 自然観察会(タンナカ高原)実施報告

自然保護委員長 栗木洋明

令和元年 10 月 27 日 (日曜日) 第 49 回の自然観察会を、岐阜県飛騨市の「流葉高原」において実施。今回の自然観察会は雨天のため、当初の 19 日から 27 日に延期。そのため、当初 50 名あった参加予定者が 3 団体 23 名に減ってしまった。しかし、紅葉の遅れもあり、紅葉の見頃にはピッタリ。ところが、思うように天候が回復せず、全面雲に覆われた重苦しい天候。ひるがの高原 SA の気温は 9 度と一桁で、車から降りると一気に肌寒さを感じた。高速道路の標高の高い場所では濃い霧に覆われ、不安定な天候が気がかりであった。数河高原の集合場所では、道の向かい側にある「ドライブイン数河」にはゲートが張られ閉店の立て看板。トイレを探して流葉高原の M プラザに移動してみると、こちらも本日休業の看板。流葉グランドのトイレを借用して数河高原に帰ると参加者の車が集結。9 時半を待って予定通り開会式を始めた。

写真撮影の後、タンナカ高原を目指して移動開始。このころからまさかの雨が降り始め、おまけにトラブル発生。8月の段階で、道路の復旧工事は9月いっぱいで完了するといっていたが、雨のために延期が続き、いまだに工事中。やむなく引き返し、流葉のMプラザに移動。流葉高原の6つある散策コースの中から、4.5キロコースを選択し、スキー場周辺で自然観察会を実施することになった。講師の小野木先生はどこを歩いても話題は豊富で話が途切れることはない。植林の森あり、広葉樹の森ありで、次第に標高も高くなり、ゲレンデ中腹に到達。森の中で昼食。雨が降っていたが森の密度があり、あまり気にならなかった。ゲレンデからは流葉の街並みや色づいた周りの山々を見渡すことができ、木片チップの敷き詰められたハイキングコースの散策を楽しんだ。小野木先生の説明はユーモアがあり飽きなかったが気温が低く肌寒いこともあり、つい足早になり、自然観察会は14時半で予定通り終了。

駐車場で閉会式をして解散。温泉や古川の街並みなど、グループごとに選択して帰路に着いた。我々は、道の駅で農産物や木工製品を買う機会があったが、段ボール箱一杯分も買い込んだ強者もあり驚いた。皆さん、雨の中の自然観察会お疲れさまでした。

